



COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.3

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の範囲を広げています。

感染防止の啓発活動をどのように実施することが望ましいかを常に心に留め、地域ごとの感染状況を考慮した活動を展開しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

＜青森県結核予防婦人会＞

青森県では、8月1日から始まる全国一斉複十字シール運動を前に、7月30日、種市恭子会長をはじめ婦人会員4名で、三村申吾青森県知事に表敬訪問を実施しました。6月には弘前保健所管内で、2017年以來の結核集団感染事例が報告され、COVID-19と同じ感染症として、市町村に対策を指導していただくよう依頼しました。また、複十字シール運動の趣旨を説明し、協力を仰ぎました。その模様は、翌日の東奥日報にカラー写真入りで掲載され、地元テレビでも放映されたとのことでした。また8月10日にはデイリー東北にも同様に掲載されました(写真1)。



写真1 青森県内での新聞報道

婦人会機関紙「健康の輪」7月号9ページでも紹介されていますが、2021年2月に書面研修会を実施しました。4月に入り、会長が所属する青森県結核予防婦人会おいらせ町支部でも書面研修会を開催し、5月までに参加者65名中20名から感想文を提出いただきました。

婦人会員のなかで、結核予防運動や複十字シール運動について、また昔のことを思い出し、結核について改めて知る機会を得ました。対面開催が難しい時期で

したが、今後の事業を進めるにあたって、大きな成果になると考えています。
ごく一部となりますが、参加者からの声をまとめましたので、ご一読いただくと幸いです。



いただいた感想文は、令和3年度の青森県結核予防婦人会おいらせ町支部の広報誌「婦れあい」に掲載する予定です。

コロナ禍であっても、研修会などを通じて、会員への情報提供を続けながら、各会員の活動を尊重しつつ、県内の結核予防活動を広げていきたいと考えております。